

# しんち九条の会だより

第2号  
2006/12/22

## 教育基本法改正案強行採決

### 国による教育の統制強化は必至

政府・与党が今国会の最重要法案と位置付けていた教育基本法の改正案(本当は改悪)が、去る15日参院を強行突破し、ついに成立しました。

これによって、「教育は、不当な支配に屈することなく、国民全体に対し直接に責任を負って行われる」とした今までの条文を「この法律及び他の法律の定めるところにより行われる」と改められました。これは、明らかに国が教育の内容に介入することを意図したものであると思われま

す。更に、教育の目標に「わが国と郷土を愛する態度を養う」と明示し、愛国心を法律で押し付けようとしています。

この教育基本法が改められたことによって、関連する法律や、学習指導要領(学校で、生徒に指導する学習内容を具体的に決めたもの)も当然変わってきます。

何年か後、子供たちが、過大な競争を強いられ、ランク付けされ、楽しいはずの学校が、苦痛の場になってしまうことを心配します。



いや、生徒だけではなく、先生方も評価やランク付けに一喜一憂し、萎縮してしまい、明るくのびのびとした教育ができなくなることを心配します。

このことが、戦前の忠君愛国の思想や国定教科書につながると考えるのは、心配のし過ぎなのでは

でしょうか。ただ、この教育基本法の改定が、憲法を改めることと一体であるとすれば、日本を戦争のできる国にし、子供たちを愛国心の下に戦争に駆り立てて行こうとする姿勢が見え隠れするのは、否定できないと思います。

### 日本国憲法第9条

- ① 日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。
- ② 前項の目的を達するため、陸海空軍その他の戦力はこれを保持しない。国の交戦権は、これを認めない。

### 日本が世界に誇れること

それは、日本が平和憲法を持っていることです。そのため、戦後60年、日本人が兵士として他国の人を一人も殺さなかったことです。自衛隊がサマワに行っても、一人の犠牲者もなく、また一人の外国人も殺さずに帰ってこれたのは、日本国憲法第9条があったからです。戦争をしない日本が誇りです。



## 憲法改正の手続きを決める国民投票法案は継続審議

衆議院憲法調査特別調査委員会は、憲法改正手続きを定める「国民投票法案」の与党案、民主党案の両案を継続審議にすると、自民、民主、公明などの賛成多数で決めました。

これは、日本国憲法が施行されて、来年が丁度60年を迎えるため、来年の通常国会で成立を目指すのだと言っています。この法案が通れば、いよいよ今度は憲法改正です。

日本国憲法だけは、絶対に改めさせてはならないと思います。

日本国憲法を守るため、皆さん一緒に頑張りましょう。



## 福島県地域・分野

## 「九条の会」全県交流会

去る12月17日、福島市民会館で標記の集会が開かれ、全県から約100名の出席者があり、「しんち九条の会」からも会長など3名が出席しました。集会では、県内各地からさまざまな報告がありましたが、特別報告として6団体から以下のような報告がありましたので、簡単にお知らせします。

・小高九条の会・・・日本国憲法の日本側の生みの親ともいべき鈴木安蔵氏（小高出身）を主人公にした映画「日本の青空」の制作を全力で応援する。現地での撮影などにも、全面的に応援したそうです。

・相馬市九条の会・・・呼びかけ人に市の著名な方々（元市長、元市議会議員、元市教育長、会社社長、牧師、宮司、僧侶、市商業会会長、福祉や体育関係者、相馬野馬追い関係者）など76名の多彩な顔ぶれで市民に大きな反響を呼んだそうで、現在はニュースの発行などさまざまな活動をしているとのこと。

・ふくしま県女性九条+24条の会・・・女性が憲法を守る運動などを行っているが、周りから変な目で見られるという心配はあったが、現在の政治がどんどん間違った方向に進んでいるのを見て、改悪の流れを止めるために立ち上がったそうです。「平和を守ることは、生命と自由を守ること」

・田沢・清水・蓬萊九条の会・・・地域のたくさんの人に、現在問題になっていることを知ってもらうため、ニュースの発行や学習会の企画をはじめ、チラシ、ポスター、宣伝カーなどを使って啓蒙活動をしているとのこと。

・梁川高校九条の会・・・現在、九条の会が出来ている高校は梁川高校の他は、保原高校と安達高校の3校だけだが、これからすべての高校に九条の会を作る運動を進めていくという力強いお話でした。

最後に、事務局から「お互い顔の知った、狭い地域での活動が大切なのである」ということばがありました。

## どうなるの？ 日本の農業



新地町でも荒れた休耕地があらこちで見られるようになりまし。農業後継者もどんどん減ってしまい、このままでは、日本の食糧自給率もますます下がっていくばかりです。めまぐるしく変わっている農業政策も、日本の農業の将来を考えているとはとても思えません。今度は小規模農家を切り捨ててしまうようですが、そうするとますます農業に希望が持てなくなってしまいます。若い人達が、自信と誇りをもって農業に取り組んでいけるような、農業できちんと生活出来るような政策をとらない限り、やがて日本の農業は滅びてしまいかねません。

世界の人口は、どんどん増え続けています。そして、必ず食糧難の時代がやってきます。そうなるからでは、日本の農業を立て直すことはもう出来ないでしょう。

今こそが大事なときなのではないでしょうか。

## 「日本国憲法と鈴木安蔵氏を語るつどい」

日本国憲法は日本が占領されていた時代にアメリカ（GHQ）によって押し付けられた憲法である、といわれていますが、実はGHQが参考にしたのは、日本人が作成した憲法草案でした。

その草案を中心となって作成したのは、旧小高町出身の鈴木安蔵という人でした。彼が作成した憲法草案の条文は、とても多くの部分で現在の「日本国憲法」に取り入れられています。したがって、押し付けられた憲法というのは正しくないのです。この鈴木安蔵氏を主人公にした映画「日本の青空」を支援する福島の会も発足しました。皆さんもぜひ応援して下さい。